

## 第5回南風原町地域福祉計画策定委員会 会議結果

日時：令和5年11月13日（月）

9時30分～12時

場所：南風原町中央公民館2階

第1～3研修室

（司会：大城班長）

### 1. 議事

（進行は上地委員長）

#### （1）第三次南風原町地域福祉推進計画について

委員長：事務局より資料説明をお願いしたい。

（事務局より 資料説明）

委員：p42 幼保こ小の「こ」の意味が分からない。

事務局：「こ」は認定こども園が町内にあるので、そこも一緒に連携するため、「こ」を入れている。

委員：これは一般的な表現なのか。何のことかわからないのではないか。

事務局：国の制度で認定こども園があり、それを含めての連携であるので入れている。

委員長：どこかに注釈で示さないとわからないのではないか。

事務局：資料編のp47のところに、用語の解説がある。内容を精査し、今指摘のあった「幼保こ小連携」についてはここに説明を入れたいと思う。

委員：計画書のp30①ですが、町の取組で、前回も話したが、自治会の組織強化はあるが、加入率向上を頑張る必要がある。p15で、自治会加入率が低いことも示されている。p30①のところに、機能強化と加入促進を図りますと、文言を入れるべきだと思う。社協の方では、加入促進という言葉があるが、町の方の取組でも必要だと思う。広報誌が町民に行き渡っていないという状況があったりもする。

p35の町の取組①エに 幼稚園、保育所（園）とある、社協では「児童生徒への福祉教育の推進」の7)で全保育園（所）、幼稚園、・・・とある。表現を統一してほしい。

p40（2）②7)3行目下から。包括的な対応に寄与します・・・とあるが、寄与しますではなくて、行いますでいいと思う。

p41 7)の2つめ、ちむぐくる は「カギ括弧」で示した方がいい。

p42 「簡素化など配慮に努めます。」とあるが、「簡素化に努めます。」がいいと思う。

事務局：自治会の加入促進については、いろいろな取組を行っていくには参加も必要であり、行

きつくところは加入率向上になる。計画策定では、1次計画策定の時に加入率向上を入れたが、それが全てというような感じになり、2次計画を作成するときに目標から削除した。いろいろな人が参加することは必要であるが、加入率だけではなく、地域参加促進の視点で取組を掲げている。

委員：地域の活性化のためには、自治会に加入してもらうことが一番であり、地域コミュニティが強化される。困っている方や災害の時とか、支援体制につながると思う。入れてもらいたい。

事務局：自治会入るのは義務化と言われると、任意ですとしか言えない。加入率を上げることが必要とは思いますが、加入率にこだわらず、計画を作ってきた。地域のつながりを重視したい。

委員：つながりだから、自治会だと思う。地域がまとまるためには、自治会加入である、意見について検討していただきたい。

委員長：沖縄県内の市町村は自治会加入率が下がっている。自治会にこだわると、その他の支援が滞らないかなと思う。あるところでは、自治会加入している人が民生委員になるということになっていたりもする。加入率にこだわると、別のところの支援体制が出来なくなるものもあるかもしれない、自治会加入でどんなメリットがあるかと言ってくる。会費は減るし、メンバーも来ない、活動にならない。

委員：南風原では、自治会に加入していないと広報紙を配らないところもある。

委員長：加入に関係なく、広報誌は配るものであると思うが。

委員：南風原は、協定を結んでいる。社協、役場、区長会、不動産協会、今の時期にしておかないと、放任みたいになると大変だと思う。

委員長：もう大変な状況である。那覇市も加入率14%、浦添も18%、そういう状況だ。

委員：自治会に加入していないと、高齢になるともっと大変だと思う。

委員長：すでに入っていない人が8割いる時代である。どうしようかというところである。

委員：会員でも会員でなくても、訪問している地域もある。団体も一緒になって訪問したりしている。

委員：自治会に加入していない人がボランティアをしたいという声があった。それはあり得ない。加入していないが老人会に入りたいというのもあった。自治会には加入しない、でもボランティアしたいというのはどうしたらいいのか。自治会費払わないとボランティアできないよというところであるが。

委員：核家族化してきている。前は、大家族で我慢もしていたが、今は我慢しない。核家族化がもたらしたのではないかと思う。子育てに関してもそうである。地域の女性会の加入がなくなっている。核家族化になって、親のそういう姿を見ていない。今は仕事があるからその付き合いがあるからいいやと、そういう感じになっているかと思う。

委員：自治会の加入率に焦点が絞られているが、自治会の魅力を情報発信しないと、どういうことをやっているのかという感じである。情報発信が大切な時代となっている。興味を持った時に画面を開けたらそれを入手できる。インターネットを使った情報発信、そう

いうもの、友愛訪問、子育て支援、いろいろやっていることを発信してやれば、自治会の魅力もあるんだと、そこからやっていって、ネット配信、自治会がどういう状況か、魅力あるところか、そこから自治会と行政がアイデアを絞ってやっていけたらと思う。

事務局：加入率の議論は終わりのないようなところもある。計画においては、一番最初のところがp27から始まっていて、各字自治会情報…というところから始まっている。自治会の強化支援も書いている。ただ、加入率というものに関して、目標から設定を除いている。加入していない人も地域参加しましょうというのが流れになっている。

前回策定の時も、自治会の活動の方に議論があったので、このように踏襲して次期計画を策定している。総合計画では加入促進が入っている。地域福祉計画の中で網羅したところで率を上げるというところは入れなかったというところである。

委員長：横浜は加入率74%となっている。防災の観点からも、本土の方は、つながりが必要となっている。そこに参加しないと、支えあえない。沖縄は、避難所の運営とか、自主防災組織化が進まない。自治会に加入していても加入していなくても、支え合おう。そういう仕組みを作るというところで計画策定している。

事務局：答申を今後行うが、その内容にも、このあたりを示している。

委員長：第三次計画の「3」は漢字で示しているが、これを算用数字の「3」に変えられないかと思っている。p5をみると、総合計画と地域福祉は漢字、その他の計画は算用数字になっている。今回、地域福祉計画も算用数字にすることを提案したいがどうか。

事務局：変更も含めて持ち帰って検討したい。前回会議でも指摘はあったが、事務局で漢字にしたところであった。

委員長：他の市町村も、10次になると漢字では+（ぷらす）みたいになるしとか、そういうところである。

委員：総合計画の中で加入率があるので、こちらの計画は、対策を入れているので、マンパワーが必要ということは入っているし、加入していなくても参加してもらうとか、そのやり方はこれまでの流れもあるし、各自治会の活動に支障がないように、公民館活動を中心にして、顔見知りの人が顔見知りになれば、いいのかなと思っている。

委員：総合計画は、基本的な考えである。こちらは個別計画であり、より具体的にしていくものである。総合計画にあって、個別計画にないというのはどうかと思う。検討していただきたい。

委員：p34に、加入促進に対する支援とある。これでいいと思う。ただ、寄与というのはどうかと思った。

委員：子育てサロンが少ない。就学前児童がいる家庭で悩みがある、そういう親たちが悩みを相談する感じで、各公民館でそういう行事が持てないかなと思う。若い親御さんは困っているかと思う。子どもたちを持っている親も仕事を持っていて日曜日以外はゆとりがないと思う。0歳から幼稚園児までができる行事があったらいい。各字PTAになると、仲間が増えて、自治会に参加しようとか、そういうものにつながるかなと思う。就学前の時期、子育てで悩んでいるとかあると思う。

事務局：子育てサロンは今は休止もあり、実質3カ所である。少なくなっている。これまであったのがなくなったのではなく、参加している親御さんが保育園に預けることができるようになったから、必要なくなったとか、そういう感じである。全ての地域にできてはいない。

委員：月に1回、日曜日があれば、ちょっとした絵本コーナーとか、童謡を聴かせたり、家族で参加できるようなことがほしい。

事務局：できるような取り組みを考えたいと思う。

委員：字としては場所提供は問題ないと思う。サロンのことがよくわからないのだと思う。

委員長：今の学校教育も地域とつながるところが少ないので、地域でやっていけたら。

委員：子育てサロンは自治会で持てたらいかなと思う。自治会に伝わる物語とか、そういうことを就学前の時から聞かせるとか、あったらいいと思う。ゲームとかテレビとか、ではなくて親子で会話ができる場とか、大切だと思う。

委員：身体障がい者協会では、近隣の市町村との交流で、やってきていた。最近では6市町村となっている。ピクニックが少なくなったら、南風原と豊見城で大型バスを借りて行こうじゃないかという話もある。昨日も県のグラウンドゴルフ大会があった。知り合いが多くてたくさんあいさつもした。そういうことを地域に置き換えたら、自治会の中の交流もあったらいいかなと思った。行事については、字内の行事で、横に広がっていないのかなと思った。綱引きでも、その字内という意識が強いかなと思う。

委員長：自治会に加入しているからデイサービスを受ける、ボランティアをやる、というのもあるが、体験する機会とか、引っ張ってきて。私の地域は男性が多いが、女性会員が少ない。

委員：他の地域から引っ越して来たから自治会に入りにくいという人がいる。ミニデイ参加したほうがいいと話をしているが、そういう家庭もあった。もう少し通えば、参加してもらえるかなと思っている。老人クラブでいろいろ行事もあると話すと、一緒に話す人がいないから、悩んではいるが。

委員長：国では重層的支援というのを進めている。うるま市や沖縄市はそういう取り組みをしようとしている。大阪の豊中市は、人口40万人で加入率が30%である。ここでは、ボランティアで、全ての地域を尋ねて行って、一人暮らしなどの情報を集めている。自治会、ミニデイなど加入しませんかというところは、ボランティアがやっていくほうがいいとおもう。民生委員の確保が大切とともに、ボランティアが増えること。自治会に頼っているのは、区長だけの負担になってしまう。沖縄県の民生委員の充足率が60%、全国では90%。一緒に行動するボランティアが必要かなと思った。重層的支援については、町村レベルでは北谷町や北中城が頑張っている。市では浦添市やうるま市などがやっている。南風原の方も、計画を作って体制づくりをしていく必要があると思う。

委員：民生委員のことで、ある自治会で欠員が出ていたが、立候補がでていた。普通お願いしに何度も行くものであるが、この人は自分からやりたいと言っている。しかしあまり自治会内では知られていない。自治会にも加入していない。15年くらい住んでいるとい

うが、自治会でも困ったが、一応採用となった。自治会に入っていないというだけで断ることもできないだろうということで、採用した。これまでは、民生委員などは自治会に入るのが当然だと思っていたが、希望する人でも採用してやっていくのがいいのではないかと結論になったところである。

民生委員を増やす必要はあるが、資質の向上というところも大切である。民生委員になってよかったと思ってもらわないといけないと思う。

委員長：民生委員は受けたが、どういう活動をしていいかわからないという人もいる。1期目だけで辞めてしまう人もいる。南風原は民生委員の充足率が62%、那覇市も同じくらいである。元大学の先生などが民生委員をやりたいと言ってきている。民生委員になって役割や心構えが大切であるし、支援する研修体制も必要である。民生委員に入門から研修する必要があると思う。民生委員の抱えている悩みとか、そういうところも把握して、対応するとか必要だと思う。ボランティアセンターも、ベテラン職員が対応するとか、社協も体制を変えながら、民生委員を活用するとか、そのためには資質向上も必要である。

委員：民生委員を知っている人は多いが、何をやっているか住民は知らないという状況もある。一旦民生委員やったらそこから抜け出せないようなイメージがあるかと思う。まずは1期をやってもらって、という感じでいいと思う。

委員長：民生委員と福祉協力員が協力する。上とか下ではなくて、そんな感じでできたらと思う。

事務局：地域の団体の話とか、いろいろ話がありましたが、皆さんの声も意見という形でまとめている。

委員：p22 (2)第2層・・・の本文内、「課題解決を実現していく場を地域プラットフォームを・・・」となっていて、「を」が続いている。

事務局：文言訂正をしていく。

(事務局より 資料編 について説明)

(事務局より 答申案について事務局より説明)

委員：答申書の意見書、主は、「意見書」ではないので、1ページ目は順番が逆がいいと思う。意見書の方で、意見の箇条書き前には「記」を入れたほうがいい。

委員：意見の4番目のところ、高齢と障がいには「者」が入っていないが、生活困窮は「者」が入っているが。

委員：中点を入れて、つなげればいいのではないか。子育て支援は後ろにして。

事務局：表現は事務局で検討したい。

委員：プランが出来て、意見書を添えていくとのことであるが、1番目と2番目の要望、町や社協の職員がこのプランを熟知して、各施策に携わるようにしてほしい。より多くの職員が意見統一し福祉向上に関わってもらいたい。

「ちむぐくる」というのは、相手を敬い情けをかけるという意味と思っている。役場職

員の接客対応について、思いやりを持って、対応し、福祉を感じられるようにと思う。そういう対応を「ちむぐくる」のある対応ができるように、温かみのある対応をやってもらいたい。

質問であるが、この計画は5か年計画であるが、途中経過はどうなるのか。

委員：毎年評価している。

事務局：前年度の取組を評価して、意見をもらうという場を設けている。今回の策定委員がそのまま評価委員となる。今年第1回目の会議が、評価であった。

委員長：計画は毎年評価してほしい。法律にも示されている。しかし、他市町村では5年後にしか評価しないところもある。南風原は毎年評価していて良いと思う。

特になければ本日の議事はこれで終了とする。事務局に進行を返す。

## (2) その他

(事務局より答申等について説明。11月30日に町長へ答申し、12月議会に提出する。)

閉会